

## 世界同時不況と鉱工業指数

～都道府県別不況の浸透度～

平成20年秋から始まった世界同時不況は、日本の製造業に、“崖から転がり落ちるような”急激な減産をもたらした。

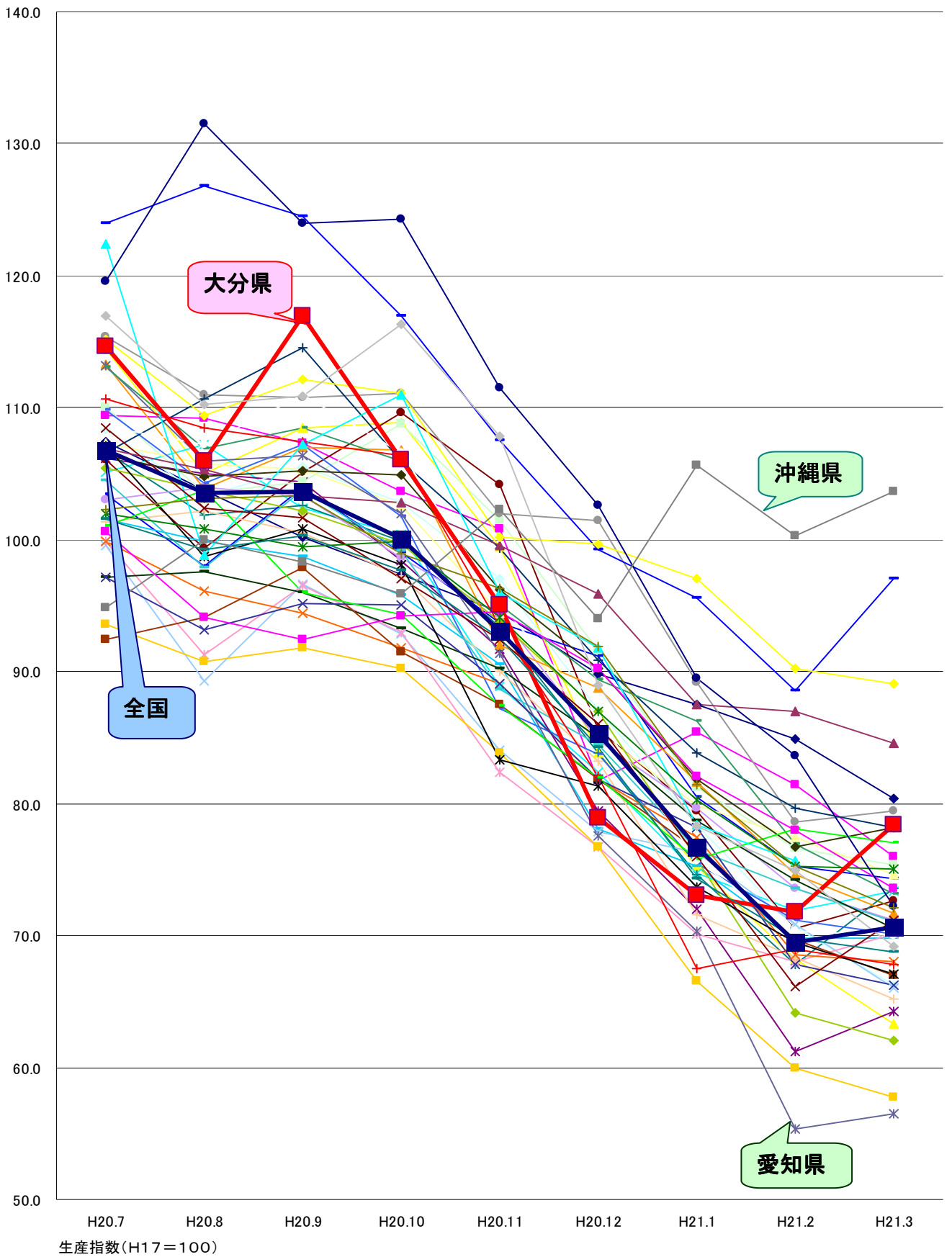
減産の程度は製造業の構造を反映し、各都道府県で異なるものになった。

大分県の製造業は、世界同時不況に陥る前の水準が高かっただけに落ち込みも激しかった。

大分県の鉱工業生産指数は平成20年7～9月の平均(112.5)から平成21年2月のボトム(71.8)まで▲36.2%低下し、全国の▲33.6%よりも大きく、47都道府県の中でも下から7番目だった。

しかし、本県の生産指数は多くの県に先駆けて2月にはほぼ下げ止まり、3月には前月比 9.2%と上昇した。これは、徳島県に次いで高いものである。

# 都道府県別の鉱工業生産指数推移



資料: 経済産業省・各都道府県統計主管課

本県の生産指数が平成20年7～9月の平均から2月までに▲36.2%低下したのは、電子部品・デバイス工業(寄与度▲10.5%)、鉄鋼業(同▲6.6%)、情報通信機械工業(同▲6.5%)によるところが大きかった。

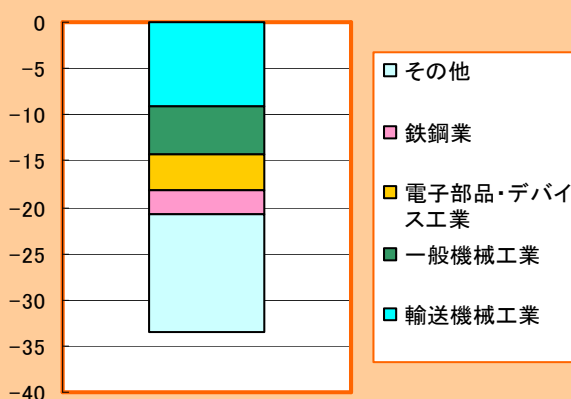
3月に前月比 9.2%上昇したのは、主に電子部品・デバイス工業(寄与度7.7%)と鉄鋼業(同2.5%)によるところが大きい。

なお、1月までに低下を続けていた情報通信機械工業は、2月に前月比64.0%の上昇を示した。

全国生産指数は2月に前月比 ▲33.6%低下したが、業種別寄与度を大きさの順に並べると、輸送用機械工業(寄与度▲9.0%)、一般機械工業(同▲5.3%)、電子部品・デバイス工業(同▲3.8%)となっており、自動車減産の影響が最も大きかったことがわかる。

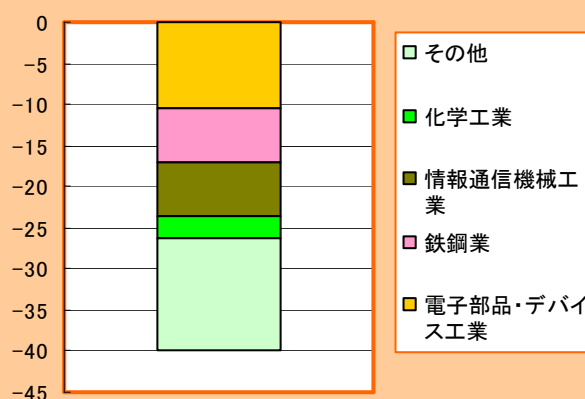
### 全国

H20.7.8.9平均～H21.2の寄与度

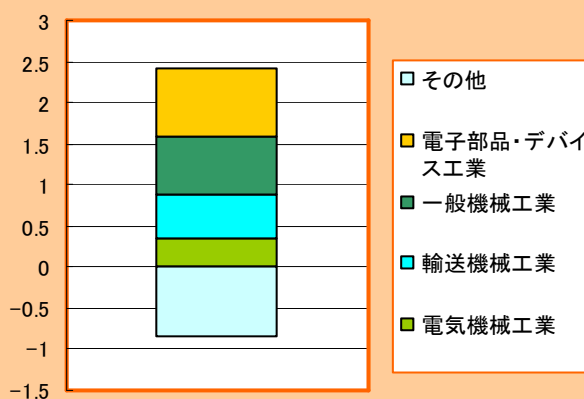


### 大分

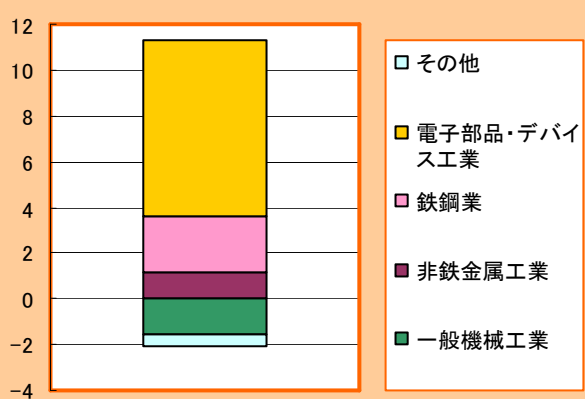
H20.7.8.9平均からH21.2の寄与度



H21.2～3の寄与度

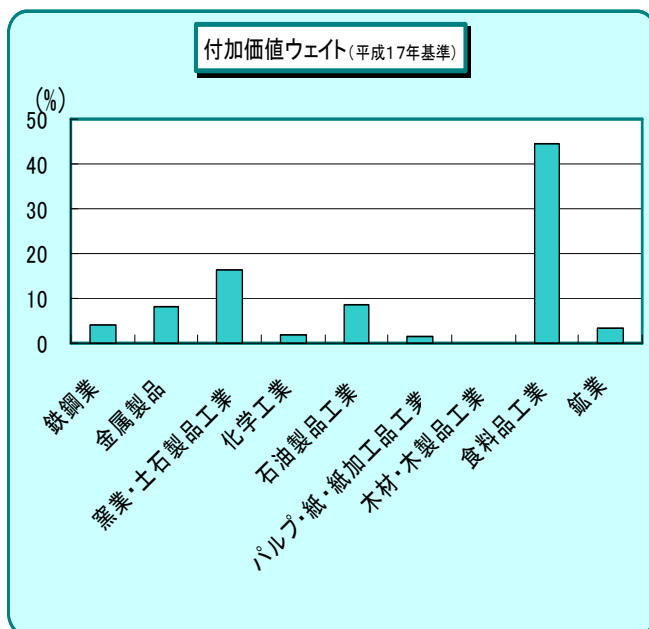
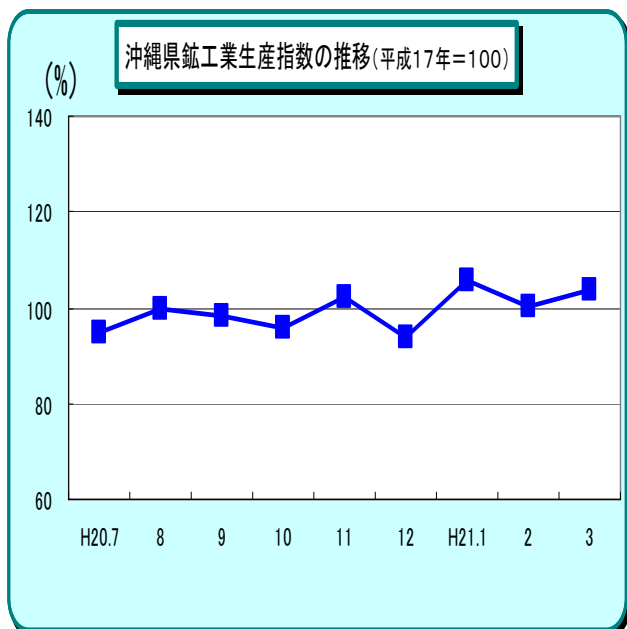


H21.2からH21.3の寄与度

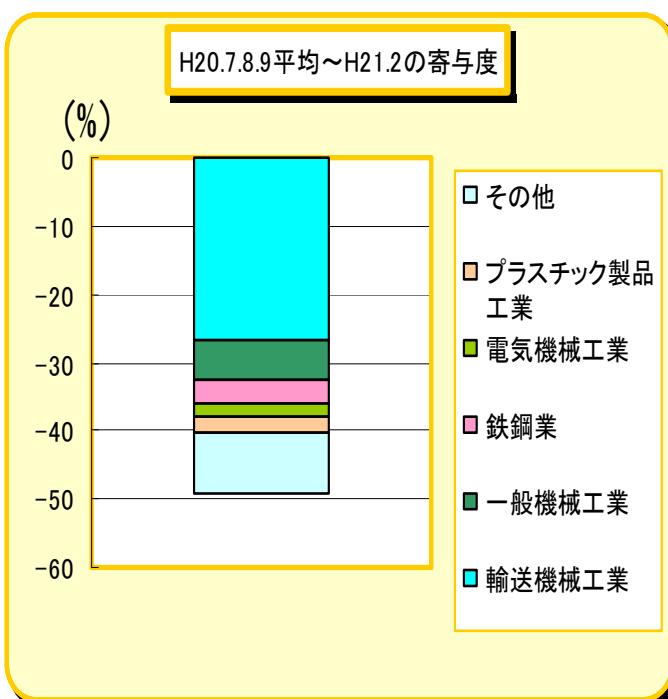
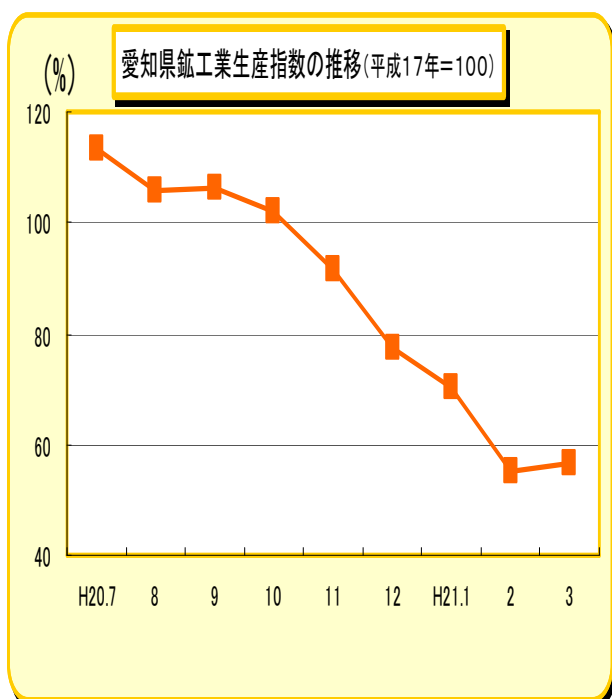


各都道府県の生産が急減した中で、沖縄県の製造業だけは不況の影響を受けず、逆にわずかながら生産指数が上昇した。

これは、同県の製造業の過半が食品工業(付加価値ウェイト 44.3%)、窯業・土製品工業(同 16.3%)など、内需型業種で占められ、輸出減少の影響を受けることが少ないからと思われる。



今回の不況で全国で最も生産指数が大きく低下したのは愛知県である。平成20年9月から2月までの半年間に指数は106.4から55.3とほぼ半減した。輸送用機械工業の寄与度が高い。



○寄与度

総合指数の増減分に対して、内訳の増減分がどの程度あるかを表示するものである。

$$\text{寄与度}(\%) = \frac{(\text{業種別指数の対前月差}) \times \text{業種ウェイト}}{\text{総合指数の前月値} \times \text{総合ウェイト}} \times 100.0$$